

キーワードは「3つのR」Reduce・Reuse・Recycle

新たな一般廃棄物処理基本計画を策定

限られた資源を有効活用し、恵み豊かな地球環境を将来に引き継ぐために、ごみの発生を抑制して環境への負荷を低減させ、持続可能な循環型社会をつくることが求められています。市では、こうした課題に的確に対応するため、従来の一般廃棄物処理基本計画を全面的に見直し、新たな計画を策定しました。

昨今の社会情勢などの変化、1市2町の合併に伴うごみ処理体系の枠組みの変更、分別区分やごみ処理システムの見直し、新清掃工場の整備などの課題に的確に対応するため、市では従来の計画を全面的に見直し、平成20年3月新たに「一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。

この計画は「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理基本計画」の2編から構成され、それぞれ数値目標が定められています。計画期間は平成20年度から平成29年度。施策の展開は「環境基本法」および「循環型社会形成推進基本法」の理念である、Reduce(リデュース・発生抑制)、Reuse(リユース・再生



使用)、Recycle(リサイクル・再利用)の「3R」を基本としています。定められた目標を達成するためには、市民・事業者・行政の協働によってごみ減量化・資源化を推進することが必要不可欠です。

「ごみ処理基本計画」

1、基本方針

- 市民・事業者・行政の協働によるごみ減量化・資源化の推進
- ごみの適正な循環利用
- 環境にやさしいごみ処理の仕組みづくり

2、目標

- 発生抑制・資源分別の観点から、ごみの中の潜在的な資源物を回収して再利用を促し、リサイクルを徹底する。(数値は下表参照)

「生活排水処理基本計画」

1、基本方針

- 公共下水道計画区域は、下水道への接続を促進

2、目標

- そのほかの区域は、合併処理浄化槽などの整備を促進、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進

2、目標

- 生活排水処理率(水洗化・生活雑排水処理人口÷人口)を86.4%に引き上げる。(下表参照)

ごみ処理の数値目標

○全体

	平成17年度	平成29年度
人口	121,139人	150,000人
総排出量	56,060t	51,500t
うち処分(焼却または埋め立て)する量	47,115t	39,200t
うち資源化する量	8,945t	12,300t
排出原単位(1人1日当たりの量)	1,268g	940g
うち処分(焼却または埋め立て)する量	1,066g	715g
うち資源化する量	202g	225g
リサイクル率	25.2%	28.0%

○取り組み項目ごと

	対象・方策	目標量	
		原単位(1人1日当たり)	年間
発生抑制	ごみとなるものは売らない・出さない、使い切るライフスタイルの推進(生ごみの水切りなどを含む)	約330gの発生抑制	18,077tの発生抑制
資源分別	紙ごみなどの分別を約3割に増加	約107gの資源化	5,880tの回収
	ビン・カン・ガラスの分別徹底	約35gの資源化	1,940tの回収
	ペットボトルの分別徹底	約2gの資源化	130tの回収
	プラスチック類の分別	約56gの資源化	3,040tの回収
	そのほか(粗大ごみなどの破碎、選別など)の資源物	約24gの資源化	1,310tの回収

生活排水処理の数値目標

区分	平成17年度	平成29年度
計画処理区域内人口	121,139人	150,000人
水洗化・生活雑排水処理人口	93,830人	129,580人
コミュニティプラント	2,277人	2,530人
合併処理浄化槽	11,151人	16,600人
公共下水道	78,955人	108,000人
農業集落排水	1,447人	2,450人
水洗化・生活雑排水未処理人口	19,668人	17,890人
単独処理浄化槽		
非水洗化人口	7,641人	2,530人
生活排水処理率	77.5%	86.4%

計画全文および概要版は、環境計画課ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/kankei/index.html>)または環境計画課(市役所2階)、下総・大栄支所農産土木課、市立図書館、各公民館、保健福祉館などで見ることができます。
※くわしくは環境計画課(☎20-1533)へ。